

「自然治癒力」を信じる



我が家には2匹、ミニチュア・シュナウザーという種類の犬がいます。
写真は1才になったばかりの「シルク」(女の子)

散歩中にガラスピンの破片を踏んでしまい、後ろ足を負傷しました。
肉球を切ったので、なかなか傷口はふさがりません。

獣医師さんに連れて行くと・・・

「絶対安静です！傷口からバイ菌が入ったら、大変なことになりますから」
そう診断され、テープでグルグル巻きにされたのでした。

しかも、足をなめないようにエリザベスカラーまで付けられて・・・(泣)

ここからの話は、太田東西に限ってのことで、ペットを飼っていらっしゃるみなさんに必ずしもおすすめすることではないことをお断りしておきます。

動物病院に連れて行くも、一向に頑丈なテープとエリザベスカラーがはずれる気配がありません。

1才のシルクはやんちゃ盛り。巻かれたテープをなんとか剥がそうとして一時もじっとしていません。不自然な足にイライラしています。

散歩は厳禁とされていますから、先住犬の3才のナッツだけ外に連れ出すと狂ったように吠え続けます。

「なんであたしだけ置いていくのよ～～！！」

そのまま1週間ほど経過。獣医師さんは「あと最低1週間はかかるかな。

治りが悪ければ手術になりますね」

それを受けて私は・・・

「漢方薬剤師としてのプライドが！」ではなく、冷静にこう考えたのです。

「確かに足だけ見たら、足の肉球にストレスを与えないようにテープで固定し安静に過ごさせることが大切かもしれない。でも足をグルグル巻きにされて首にはエリザベスカラーを巻かれ、外出禁止というストレス（イライラ）から自然治癒力は低下するのではないか？

そもそも犬はそんなにバイ菌に弱い、感染症になりやすい生き物なのか？」

一方、妻は「言われたとおりにしないと、万一のことがあったらどうするの・・・

シルクにはかわいそうだけど、治るまでの我慢よ！」という考え。

常識では妻の言うとおりののですが、職業柄、夫はイチマチ納得できません。

いずれにしても今のシルクに一番必要なものは、“自然治癒力”

ならば、犬といえども彼女のストレス、“心の問題”を抜きにして

自然治癒力アップは期待できない。

「オレにシルクのこと、任せてくれないか」

夫はテープをはずし、犬用靴下をはかせて散歩に連れ出しました。

人間も犬も、傷ついた組織の修復は、寝ている時間の夜です。
そこで寝る前に『みつろうクリーム』をたっぷり塗り、漢方を飲ませる。
日中はたくさん抱っこして、膝の上で撫でてあげました。

シルクを「うれしい!」「気持ちいい!」という気分にさせる。
それが「自然治癒力アップ」になると信じるから。

ある時、私がモップをかけているとシルクが何度も飛びついてきます。
さすがにこれは傷に良くありません。
「困ったな・・・」



と、その時、ひらめいたのです。

『リックサック』に背負おう!と

これがまた、居心地がいいのか
おとなしくしているんですよ(笑)



「シルクばかりずるいぞ〜!」とナッツ

結局、
前後2匹抱えることになって
掃除できなくなりました~~(泣)



そしていつしか
シルクの足は完治していました・・・

本来、人間にも素晴らしい“自然治癒力”が備わっています。

科学と医学の進歩は、確かに人間の寿命を延ばし、健康に寄与していますが
一方で人間の“自然治癒力”“自分を信じる力”を後退させている気がします。

太田東西ブログ

ほぼ毎日ネットで更新中！

幸せな瞬間 2014.4.5

たまに「せんせい～見てください～～」 うれしい写メをいただきます。

ボクの仕事は病気の相談で、基本、笑顔になれない仕事ですから
お客様の「楽しいで～～す！」「幸せで～～す！」のお知らせは、心底うれしいです。

Mさんからの写メ

餃子づくりに励む、3人のお子さん
(ちなみに中学、小学、高校生)



「なんだかしみじみと子どもたちがかわいいと思って、先生に写メしました～」

しかし、驚いた！

だってMさん、以前はお子さんたちにイライライライライライライラして、(´ ｀)ノ
“凶暴”だったから・・・ (失礼) ついでに、ご主人にも・・・(汗)

それがいつしか

無心で餃子を作るお子さんたちの姿を見て、
「あ～～子どもたち、かわいいなあ～～～～」
思えるようになられたんですね・・・(嬉泣)

写真、ブログネタ使用に快諾くださってありがとうございます！

「後ろの台所が片付いてなくて恥ずかしいですが・・・」とおっしゃっていましたが

“心の整理”ができているから大丈夫ですよ(笑)

幸せはごくごく身近なところにあって、幸せかどうかは他人が決めることではなく

“自分の心”が決めるみたいですね！！ \ (^o^) /